

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	62人
② 算数	61人
③ 理科	62人

5 留意事項

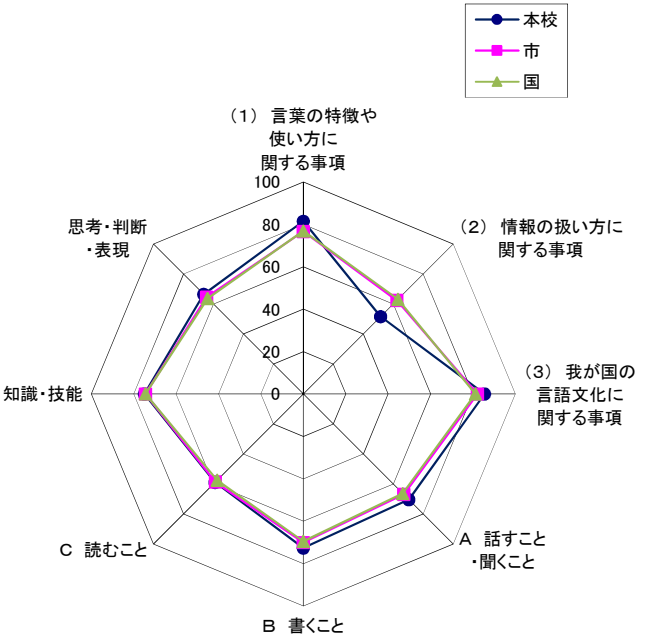
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	81.5	76.7	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	51.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	70.4	67.0	66.3
	B 書くこと	72.6	70.0	69.5
	C 読むこと	58.9	58.6	57.5
観点	知識・技能	75.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	66.5	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

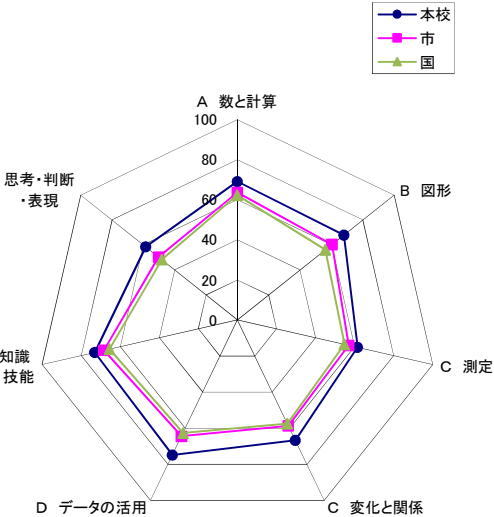
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや高い。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問の平均正答率は81.5%で、全国の平均正答率を4.6ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習の漢字を正確に使用することができるよう、引き続き、反復練習や確認テストで定着を図っていく。 ・漢字の「読み」と「意味」を一致させ、文脈に合わせて正しい漢字を使用できるよう、同じ読み方で意味の異なる漢字を使った短文を作るなど、工夫して学習に取り組めるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国の平均正答率より低い。 ●情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問の平均正答率は51.6%で、全国の平均正答率を11.5ポイント下回っている。	・インタビューを行う学習活動では、学習の進め方を整理するために、質問の内容とそれに関連する言葉を線でつなぐなど、図で記録する活動を取り入れる。 ・各教科の学習において、文脈の中で重要な情報を短い言葉でまとめたり、語句と語句の関係性を記号を用いて図に表したりするなどの活動を取り入れ、情報の表し方を理解できるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや高い。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる設問の平均正答率は85.5%で、全国の平均正答率を4.3ポイント上回っている。	・日常の様々な場面において、日本語の言葉の意味を正しく理解し、場に応じて適切に使用できるように支援する。また、時代とともに言葉は変化していくことや、世代や地域によっても意味や使い方が変わることを理解させ、豊かなコミュニケーションが図れるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は77.4%で、全国の平均正答率を5.6ポイント上回っている。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問の平均正答率は71.0%で、全国の平均正答率を2.7ポイント下回っている。	・話し合の際は、話し手と自分の考えを比較して共通点や相違点を整理し、みんなに分かりやすく伝えられるよう意識付けを図る。 ・自分の考えを広げられるようにするため、自分と異なる意見を様々な視点から検討したり、学んだことを話し合ったりするなど、引き続き、自分の学びを振り返る機会を設けるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや高い。 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問の平均正答率は90.3%で、全国の平均正答率を8.5ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問の平均正答率は51.6%で、全国の平均正答率を9.7ポイント下回っている。	・自分の考えを条件に合わせて書き表せるよう、文章を読んで要約したり感想を書いたりする活動を取り入れるようにする。 ・書き表し方の工夫について理解が深まるよう、書いた文章を友達と読み合い、表現の良い点やよりよく工夫できる点について話し合う活動を多く取り入れるようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国の平均正答率よりやや高い。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は82.3%で、全国の平均正答率を0.7ポイント上回っている。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる設問の平均正答率は40.3%で、全国の平均正答率を11ポイント下回っている。	・語彙力を増やせるよう、日頃から新出語の意味を辞書等で調べたり、言葉の意味を推測しながら読んだりできるよう意識付けを図る。 ・読解力を高めるために、大切な言葉や根拠となるところに印をつけて内容を整理しながら文章を読んだり、読んで考えたことを伝え合ったりするなどの活動を適宜取り入れるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.1	63.6	62.3
	B 図形	68.0	60.4	56.2
	C 測定	61.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	66.7	58.6	57.5
	D データの活用	74.8	64.4	62.6
観点	知識・技能	73.0	68.3	65.5
	思考・判断・表現	58.5	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

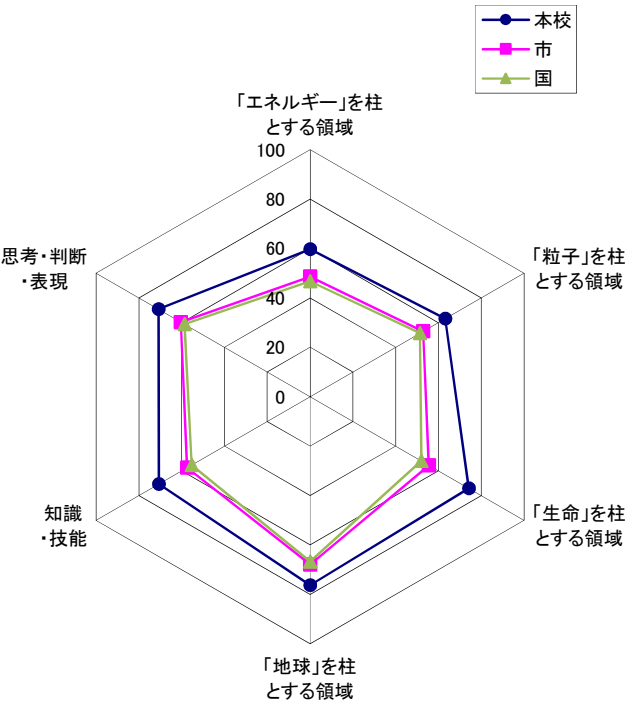
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えることができるかをみる設問の平均正答率は82.0%で、全国の平均正答率を7.9ポイント上回っている。 ○分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する設問の平均正答率は32.8%で、全国の平均正答率を9.8ポイント上回っている。 ●数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は34.4%で、全国の平均正答率を0.6ポイント下回っている。	・朝の学習や家庭学習において、計算ドリルやAドリル等を繰り返し行うなど、基礎的な力を高める学習活動を継続する。 ・与えられた情報から必要な情報を適切に選んで活用する問題に取り組むようにする。 ・文章問題等に取り組む際に、じっくりと考える時間を設けると共に一文ごとに場面を整理させ、問われていることや文章の内容を正しく読み取り、立式する力を身に付けられるようにする。また、立式に至るまでの過程を説明できるよう指導する。
B 図形	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問の平均正答率は75.4%で、全国の平均正答率を25.2ポイント上回っている。 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する設問の平均正答率は52.5%で、全国の平均正答率を15.5ポイント上回っている。 ●角の大きさについて理解しているかどうかをみる設問の平均正答率は73.8%で、全国の平均正答率を5.5ポイント下回っている。	・図形の性質を再確認し、公式等を設問に応じて活用できるように演習問題などに取り組ませる。 ・図形についての感覚を豊かにするため、必要な場面においてデジタル教科書やタブレット端末を適切に活用する。
C 測定	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する設問の平均正答率は62.3%で、全国の平均正答率を13.6ポイント上回っている。 ●はかりの目盛りを読む設問の平均正答率は60.7%で、全国の平均正答率を0.2ポイント下回っている。	・1目盛りの大きさが異なるはかりを読む学習を通して、1目盛りの数字がいくつを意味しているのかを理解して適切にはかりを読み取ることができるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だし設問の平均正答率は90.2%で、全国の平均正答率を7.4ポイント上回っている。 ○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す設問の平均正答率は47.5%で、全国の平均正答率を6.6ポイント上回っている。	・伴って変わる二つの数量の関係について、問題場面を数直線に表すことで基準量と比較量を明確にし、数量と倍の関係について視覚的に捉えることができるようにする。また、考えの理由を文章で記述したり、説明したりする機会を適宜設定することで、根拠を明らかにして表現する力を身に付けられるようにする。
D データの活用	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取る設問の平均正答率は86.9%で、全国の平均正答率を8.2ポイント上回っている。 ○目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する設問の平均正答率は49.2%で、全国の平均正答率を18.2ポイント上回っている。 ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ設問の平均正答率は85.2%で、全国の平均正答率を13.6ポイント上回っている。	・日常生活と関連付けた課題について、自分たちが集めたデータ表やグラフを用いて分析、整理したりするなど、児童にとって解決の必要性のある課題設定を行うことで意欲的に取り組めるようにする。 ・様々なグラフの種類や良さを理解したり、目的に適したグラフを選択したりする学習を取り入れる。また、グラフを選択した理由について言葉や数を使って記述したり説明したりする機会を設けることで、理解を深めることができるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	59.7	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	63.2	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	74.2	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	76.3	67.9	66.7
観点	知識・技能	70.6	57.5	55.3
	思考・判断・表現	70.8	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる設問の平均正答率は91.9%で、全国の平均正答率を13.9ポイント上回っている。 ○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる設問の平均正答率は72.6%で、全国の平均正答率を17.5ポイント上回っている。	・児童が設定した問いを解決できるよう単元を構想し、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・実験を通して分かったことや考えたことを、友達と話し合ったり自分の言葉で表現したりする機会を適宜設ける。また、考察やまとめの際には、理科の見方・考え方として必要な言葉や表現、理科の用語を押さえ、言語活動の充実を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する設問の平均正答率は66.1%で、全国の平均正答率を15.5ポイント上回っている。 ○●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる設問の平均正答率は27.4%で、全国の平均正答率を16.8ポイント上回っているものの、正答率としては課題がある。	・電気を通す物や磁石に引き付けられる物について、日常生活や各教科の学習などで適宜内容を取り上げて確認したり、演習問題等に取り組ませたりすることで、基本的な知識が身に付くようにする。 ・根拠を明らかにして自分の考えを書く指導を繰り返し行い、科学的な思考力や表現力を育成できるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する設問の平均正答率は61.3%で、全国の平均正答率を31.4ポイント上回っている。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる設問の平均正答率は71.0%で、全国の平均正答率を25.4ポイント上回っている。	・予想や仮説をもとに実験方法を考えたり、問題解決に向けて主体的に取り組んだりできるよう、児童が考える時間や友達と話し合う時間を十分に確保できるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均正答率より高い。 ○水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ設問の平均正答率は72.6%で、全国の平均正答率を15.1ポイント上回っている。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現する設問の平均正答率は90.3%で、全国の平均正答率を10.8ポイント上回っている。	・実験や観察の時間を十分に設け、実験・観察の技能の向上を図れるようにする。また、具体的な数値等とともに結論を記述させるようにすることで、実験結果をまとめたり考察したりする力の向上を図れるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答の割合は95.3%で、全国の平均を上回っている。また、「自分にはよいところがある」や「先生はあなたのよいところを認めてくれている」の肯定的回答の割合についても、全国の平均をやや上回っている。引き続き、授業や特別活動等の機会を利用して、児童が自分自身のよさに気づき、目標をもって学校生活を過ごせるように支援していく。

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれだけの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上している」と回答した児童の割合は平日で86%、休日で78.1%と、どちらも全国の平均を上回っている。引き続き、児童の頑張りや称賛して意欲を高めつつ、自主学習に取り組む意義や成果を感じられるようにすることで、家庭学習の習慣化と充実を図れるようにする。

○タブレット端末の使用について、授業での使用頻度や活用力を問う設問の肯定的回答の割合は、全国の平均を上回っているものが多い。引き続き、授業や学校生活の様々な場面におけるICTの効果的な活用を推進し、児童のICT活用能力の向上を図っていく。

○●「自分と違う意見について考えるのは楽しい」や「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することはできている」について、「当てはまる」と回答した割合は全国の平均を上回っている。しかし、「やや当てはまらない」や「当てはまらない」と回答した児童も一定数見られ、学習に主体的に取り組むことのできる児童が増えている反面、学びの楽しさや学び方の工夫等に課題を感じている児童がいる様子がうかがえる。どの子にも学びの充実を感じられる授業となるよう、課題設定の工夫や個別支援の充実を図れるようにしていく。

○●「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」について、「当てはまる」と回答した児童の割合は全国や県の平均を上回っている。しかし、「やや当てはまる」を含めた肯定的回答の割合は87.5%で、全国の平均をやや上回るものの県の平均とは同じであり、話し合いのよさを感じられていない児童が一定数いる様子がうかがえる。友達と話し合うよさを感じられるよう、話し合いの目的を明確化したり、話し合いを通して学んだことを確かめたりするなど、各教科のねらいの達成に向けて、意義のある話し合い活動を展開できるようにする。

○●「各教科の学習が好きか」を問う設問の肯定的回答の割合について、国語は全国の平均をやや下回っているものの、算数と理科については全国の平均をやや上回っている。また、5学年時に行った前回のアンケート調査の結果と比較すると、肯定的回答の割合は、算数は上昇し、理科はほぼ変化が見られないものの、国語に低下傾向が見られる。特に国語の学習において、児童の興味や関心を高めつつ学ぶよさや楽しさを感じられる授業となるよう、単元構成や授業の展開の工夫を図れるようにする。

●「読書は好きですか」の肯定的回答の割合は67.2%で、全国や県の平均をやや下回っている。また、平日の読書量について「10分より少ない」または「全くしない」と回答した割合は全国や県の平均を上回るなど、読書量の少ない児童が多い様子がうかがえる。定期的におすすめの本を紹介したり、行事等を活用して啓発を図ったりすることで、読書のよさや楽しさを味わい、進んで読書に取り組めるようにしていく。

宇都宮市立岡本北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学業指導の充実と「宇都宮モデル」を踏まえた授業実践、及び創意工夫した家庭学習の習慣化	学びに向かう集団づくりと児童が意欲的に取り組む授業づくりの双方を関連させて指導を進めると共に、宇都宮モデルを活用した授業や単元展開の工夫を通して、学級経営力と授業力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	学業指導や宇都宮モデルの授業実践に関連する各設問への肯定的回答の割合は、全国の平均を上回っているものが多い。学業指導や宇都宮モデルを踏まえた授業実践の充実が図れている様子がうかがえる。学習内容の定着についても、教科間の差は見られるものの、良好な様子がうかがえる。 平日や休日の家庭学習について、全国の平均を上回る学習時間を確保できている児童が多い。引き続き、基礎基本の定着と家庭学習の習慣化、意欲の向上が図れるよう、課題を工夫したり児童の頑張りや称賛したりしていく。
主体的に学び考えを広げ深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらい達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりする」への肯定的回答の割合は、全国の平均をやや上回っている。引き続き、児童が安心して話し合いに参加し、そのよさを感じられるよう、活動の工夫を図れるようにする。 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」は全国や県の平均を上回っているものの、「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」への肯定的回答の割合は、全国や県の平均をやや下回っている。学びを学習だけではなく、実生活につなげたり生かしたりできるよう、単元展開や授業構想等の充実を図れるようにする。
1人1台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習指導の充実	タブレット端末の日常的な利用を推進すると共に、「リアル」と「デジタル」のベストミックスされた学習活動の実現を目指し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	PC・タブレット端末などのICT機器の活用力に関する設問への肯定的回答の割合は、全国や県の平均を上回っている項目が多い。タブレット端末の活用力が向上し、学習における効果的な利用が進んでいる様子がうかがえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
話し合い活動の充実と、学習内容と実生活との関連	各教科のねらいの達成に向けた話し合い活動の工夫と、実生活との関連を意識した単元及び授業構想の工夫	ねらいの達成に向けた効果的な話し合い活動を展開できるよう、話し合いの目的を明確にし話し合いを通して学んだことを確かめたりするなど、友達と話し合うよさを感じながら学習課題の解決を図れるようにする。また、日常生活との関連を重視した単元展開(導入、見直し、振り返り活動等)を構想し、学びと実生活との関連を図れるようにする。